

## 統廃合の反対を求める署名について

平成29年2月21日の第5回統合検討委員会終了後に豊明市立唐竹小学校PTA学校統合対策特別委員会から、豊明市長、豊明市教育長、統合検討委員会委員長へ、下記のとおり署名の提出がありました。

### 記

#### 1 署名趣旨

次の3点の理由により、唐竹小学校・双峰小学校の統廃合の反対を求める。

- (1) 現在、小学校統合の必要性を感じていない。
- (2) 市側は、保護者との話し合いを一方向的に進めており、保護者との溝が深まっている。
- (3) 間米南部地区の宅地開発が動き出したところであり、人口増の可能性がある。

#### 2 署名数

豊明市民、唐竹小学校卒業生及び在校生、唐竹小学校関係者（現教職員を除く）、市内在勤者の総数3514筆

#### 3 その他

市長部局として、3月11日に署名趣旨について、豊明市立唐竹小学校PTA学校統合対策特別委員会に口頭にて回答を行う。その後、5月8日に当該委員会より、豊明市長に書面にて回答するよう要望書が提出された。

私たちは、以下の理由により、『唐竹小学校・双峰小学校 統廃合の反対を求める署名』の活動を実施しました。

【活動理由】

1. 現在、小学校統廃合の必要性を感じていない。
2. 市側は、保護者との話し合いを一方的に進めており、保護者との溝が深まっている。
3. 間米南部の宅地開発が動きだしたところであり、人口増の可能性が有る。

※『統廃合の反対を求める署名活動』は統廃合の賛否の意思を示したのではなく、豊明市の統廃合の検討の進め方に対して反対の意思を示すものです。

署名活動は下記の実施要綱に基づき活動いたしました。

記

1. 活動期間  
平成 29 年 1 月 14 日（土）から平成 29 年 2 月 18 日（土）《36 日間》
2. 署名活動の範囲  
① 豊明市在住の方。  
② 唐竹小学校卒業生。在校生。  
③ 唐竹小学校に関係のある、またはあった方。（除く、現教職員）  
④ 豊明市内に在勤の方。（※他県の祖父母や市外に住む友人等は除外する。）

3. 署名の提出先

提出先：豊明市長 小浮 正典 様  
豊明市教育長 伏屋 一幸 様  
豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統廃合検討委員会  
委員長 小川 雄二 様

以上

唐竹小学校・双峰小学校 統廃合の反対を求める署名

平成 27 年 1 月文部科学省は、『クラス替えができない規模の小学校は教育上の課題があるため、児童数の状況や更なる小規模化の可能性を勘案し、学校統廃合等により適正規模に近づけることの適否を検討する必要がある』との考えを示しました。

これを受け豊明市は、平成 28 年 5 月、『豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統廃合検討委員会』を設立し、保護者との意見交換会も 4 回開催しました。

市長は、「統廃合はゼロベース」と言いながら、統合イメージ案が示されるなど、統合ありきと受け取れる進め方に、保護者・地域は戸惑いを感じています。

そもそも、私たち唐竹小学校保護者から統合の要望を出したわけではなく、市が小規模校には教育上の課題があることを前提に、強引に統合を進めていると思えてなりません。こうしたやり方は児童・保護者や地域を置き去りにするものであり、「学校がなくなるかもしれない」と強い不安を抱いている児童もたくさんいます。

私たちは、以下の理由により、統廃合の反対を要望します。

- 1 現在、小学校統廃合の必要性を感じていない。
- 2 市側は、保護者との話し合いを一方的に進めており、保護者との溝が深まっている。
- 3 間米南部の宅地開発が動きだしたところであり、人口増の可能性が有る。

宛先 豊明市長 小浮 正典 様  
豊明市教育長 伏屋 一幸 様  
豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統廃合検討委員会 委員長 小川 雄二 様

名	前	住	所

【個人情報の取り扱いについて】署名いただいた内容については、これ以外の用途に使用することはございません。

署名呼びかけ者

代表 中川 富士子（豊明市立唐竹小学校 P T A 学校統廃合対策特別委員会委員長）  
青木由美子、原晃江、小島寛子、卯木朋子（以上、豊明市立唐竹小学校 P T A 役員）  
小島博司（元間米区長）、青山政憲（元豊明間米南部地区土地区画整理組合発起人会代表）  
代表者住所：豊明市二村台 1 丁目 30 - 34

問い合わせ：TEL 0562-95-0225

## Q-Uアンケートについて

### 1 Q-Uとは

Q-U (questionnaire utilities) とは、「楽しい学校生活を送るためのアンケート」のことです。Q-Uを実施することにより、児童生徒一人一人についての理解と対応方法、学級集団の状態と今後の学級経営の方針を把握することができます。

「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」「いごちのよいクラスにするためのアンケート」という2つの心理テストから構成されています。

豊明市では、小学3年生から6年生、中学1年生から3年生までQ-Uを行っています。6月と11月の年2回行い、学校生活での意欲や、学級での満足度の割合を数値化して表しています。

### 2 データ比較

Q-Uは、学校ごとに行いますが、結果について学校ごとの数値は公表していません。よって、28年度のQ-U（学級生活満足群）データを学校規模によって比較すると、次の表のとおりとなります。なお、数値は学校生活に満足している子どもの割合になります。

	調査月	3年	4年	5年	6年	平均(%)
小規模校 平均	6月調査	40	25	41	58	41
	11月調査	55.5	46	40	65.5	51.8
中規模校 平均	6月調査	44.7	43.2	51.0	59.8	49.7
	11月調査	50.3	41.3	49.2	56.2	49.3
全国平均	6月平均	41	39	39	39	39.5
	11月平均	41	39	39	39	39.5

## 教員アンケート及びヒアリング結果について

## 1 教員アンケートについて

4月17日付けで市内小中学校の校長、教頭、主幹、教務主任、校務主任を対象に学校規模に関するアンケートを実施しました。

アンケートでは、次の各項目別に、小学校を運営するにあたり最も効果があると思う学校規模に「◎」、次に効果があると思う学校規模に「○」を記入していただきました。

## 【教員アンケート結果】

## I 学習面

1	児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育指導ができる。	小規模校	◎	28%
			○	12%
		中規模校	◎	4%
			○	29%
		大規模校	◎	0%
			○	0%
規模は関係ない	—	13%		

※ 児童一人ひとりに目が届き、きめ細かく教育指導できるのは小規模という考えが多い。

2	話し合い活動やグループ活動など多様な学習、指導形態をとりやすい。	小規模校	◎	7%
			○	7%
		中規模校	◎	14%
			○	14%
		大規模校	◎	1%
			○	1%
規模は関係ない	—	28%		

※ 多様な学習、指導形態に学校規模は関係ないという考えが多い。

3	児童の学習意欲が高まる。	小規模校	◎	7%
			○	5%
		中規模校	◎	3%
			○	14%
		大規模校	◎	0%
			○	1%
規模は関係ない	—	36%		

※ 児童の学習意欲に学校規模は関係ないという考えが多い。

4	児童が積極的に授業に参加できる。	小規模校	◎	12%
			○	5%
		中規模校	◎	1%
			○	15%
		大規模校	◎	0%
○	0%			
規模は関係ない	—	35%		

※ 児童の積極的授業参加に学校規模は関係ないという考えが多い。

5	児童が学習面で切磋琢磨できる。	小規模校	◎	1%
			○	4%
		中規模校	◎	11%
			○	15%
		大規模校	◎	9%
○	23%			
規模は関係ない	—	26%		

※ 学習面での切磋琢磨には人数が多い方が良いという考えもある一方、学校規模は関係ないという考えもある。

6	児童が幅広い考え方を学ぶことができる。	小規模校	◎	1%
			○	0%
		中規模校	◎	11%
			○	15%
		大規模校	◎	12%
○	16%			
規模は関係ない	—	22%		

※ 幅広い考え方を学ぶことには人数が多い方が良いという考えもある一方、学校規模は関係ないという考えもある。

7	学力が総合的に高まる。	小規模校	◎	5%
			○	3%
		中規模校	◎	3%
			○	12%
		大規模校	◎	0%
○	5%			
規模は関係ない	—	39%		

※ 総合的な学力には、学校規模は関係ないという考えが多い。

8	効果の高い学校行事を行うことができる。	小規模校	◎	4%
			○	11%
		中規模校	◎	24%
			○	17%
		大規模校	◎	5%
			○	8%
規模は関係ない	—	15%		

※ 学校行事は、中規模が良いという考えが多い。

9	多様な部活動を行うことができる。	小規模校	◎	0%
			○	2%
		中規模校	◎	10%
			○	30%
		大規模校	◎	31%
			○	13%
規模は関係ない	—	6%		

※ 多様な部活動は、大規模が良いという考えが多い。

## II 学校生活面

10	児童同士の間関係を広げることができる。	小規模校	◎	0%
			○	2%
		中規模校	◎	18%
			○	21%
		大規模校	◎	21%
			○	13%
規模は関係ない	—	14%		

※ 児童同士の関係の広がり、規模が大きい方が良いという考えが多い。

11	児童と先生との間関係を広げることができる。	小規模校	◎	10%
			○	7%
		中規模校	◎	9%
			○	15%
		大規模校	◎	10%
			○	9%
規模は関係ない	—	20%		

※ 児童と先生との関係の広がり、意見が分かれる。

1 2	児童の社会性・協調性を育てることができる。	小規模校	◎	1 %
			○	1 %
		中規模校	◎	1 4 %
			○	1 7 %
		大規模校	◎	9 %
○	1 1 %			
規模は関係ない	—	2 5 %		

※ 社会性・協調性を育てることについては、学校規模は関係ないという考えが多いが、中規模校が良いという考えも一定数ある。

1 3	児童のコミュニケーション能力を養うことができる。	小規模校	◎	3 %
			○	8 %
		中規模校	◎	1 3 %
			○	1 0 %
		大規模校	◎	5 %
○	1 0 %			
規模は関係ない	—	2 8 %		

※ コミュニケーション能力の養成については、学校規模は関係ないという考えが多いが、中規模校が良いという考えも一定数ある。

1 4	児童がいきいきと学校生活を送ることができる。	小規模校	◎	9 %
			○	3 %
		中規模校	◎	5 %
			○	1 2 %
		大規模校	◎	0 %
○	3 %			
規模は関係ない	—	3 7 %		

※ いきいきと学校生活を送ることに学校規模は関係ないという考えが多い。

1 5	学年を超えての交流や活動ができる。	小規模校	◎	2 8 %
			○	1 0 %
		中規模校	◎	1 0 %
			○	2 0 %
		大規模校	◎	0 %
○	7 %			
規模は関係ない	—	1 2 %		

※ 学年を超えた交流は、規模が小さい方が良いという考えが多い。

16	児童の間でのトラブルが起きにくい。	小規模校	◎	23%
			○	6%
		中規模校	◎	2%
			○	21%
		大規模校	◎	0%
			○	0%
規模は関係ない	—	36%		

※ 児童間のトラブルの起きにくさに学校規模は関係ないという考えが多い一方、小規模校が良いという考えも一定数ある。

### Ⅲ 学校運営面

17	教員間での意思疎通が図られやすく、相互の連携が密になりやすい。	小規模校	◎	32%
			○	7%
		中規模校	◎	7%
			○	29%
		大規模校	◎	3%
			○	0%
規模は関係ない	—	11%		

※ 教員間の意思疎通・相互連携は小規模校が良いという考えが多い。

18	学習指導についての研究・協力が行いやすい。	小規模校	◎	10%
			○	10%
		中規模校	◎	21%
			○	15%
		大規模校	◎	7%
			○	3%
規模は関係ない	—	21%		

※ 学習指導の研究・協力の行いやすさについては、中規模校が良いという考えと学校規模は関係ないという考えに分かれる。

19	生徒指導についての情報共有、組織的対応がしやすい。	小規模校	◎	25%
			○	17%
		中規模校	◎	13%
			○	22%
		大規模校	◎	1%
			○	2%
規模は関係ない	—	10%		

※ 生徒指導についての情報共有については、小規模校がよいという考えが多い。



20	学習指導に専念しやすい。	小規模校	◎	8%
			○	6%
		中規模校	◎	5%
			○	13%
		大規模校	◎	3%
○	10%			
規模は関係ない	—	28%		

※ 学習指導への専念については、学校規模は関係ないという考えが多い。

21	児童の把握がしやすい。	小規模校	◎	43%
			○	9%
		中規模校	◎	0%
			○	37%
		大規模校	◎	0%
○	0%			
規模は関係ない	—	5%		

※ 児童の把握については、小規模校が良いという考えが多い。

22	保護者とのコミュニケーションをとりやすい。	小規模校	◎	32%
			○	9%
		中規模校	◎	1%
			○	26%
		大規模校	◎	0%
○	0%			
規模は関係ない	—	18%		

※ 保護者とのコミュニケーションについては、小規模校が良いという考えが多い。

23	学校施設を有効に使える。	小規模校	◎	38%
			○	9%
		中規模校	◎	2%
			○	34%
		大規模校	◎	0%
○	0%			
規模は関係ない	—	8%		

※ 学校施設の有効活用については、小規模校が良いという考えが多い。

24	いじめ、不登校への対応がしやすい。	小規模校	◎	20%
			○	11%
		中規模校	◎	8%
			○	19%
		大規模校	◎	0%
			○	3%
規模は関係ない	—	20%		

※ いじめや不登校の対応については、小規模校が良いという考えと学校規模は関係ないという考えに分かれる。

#### IV 学校規模に関する自由意見

学校規模よりも教員一人あたりの児童数が少なければ少ないほど、きめ細かい指導ができる。
小規模校では児童ひとりひとりと向き合い個性を尊重した指導が可能である。大規模校では児童どうしの競争原理から互いに高め合う指導がしやすい。
学校規模よりも教員の質や能力、地域保護者の協力体制の方が重要である。
大規模校になる程、施設が使いたくても活用できず、学習指導に困る場面が多々あった。小規模ほど個々の結び付きは強くなるが、反面トラブルがあるとそれを先々まで引きずることも見られた。
やはり様々な面で、小規模校の方が一人ひとりに対して懇切丁寧な指導ができると思う。一方で、小規模校だと職員の数が少なくなり、職員一人あたりの役割が多くなり、負担になるといったことがあると思う。それを改善するために人的配置をしていただけるとありがたい。
学校規模という考え方よりも学級の人数や大人一人に児童が何人か（支援員を含め）が、細やかな支援ができるかどうかだと思う。
1学級20人程度だときめ細かな対応が常時できる。30人以上になるとそれが難しくなる。
教科指導・生徒指導ともに学級数で比較するのは難しく、20人学級と40人学級では同じ学級数であっても指導支援の課題は異なってくる。 大規模校になると少人数指導は、教室の確保が難しくなっている。 児童生徒の人数あたりの教員数で考えると、小規模校の方が補助教員を含めれば手厚い指導が可能である。

<p>環境づくりや人的配置をしていけば規模に関係なく、子どもたちにとっての教育環境は充実できると考えている。</p>
<p>小規模であれば、児童一人一人に目が届きやすいが、反面校務分掌にかかわる点、一人の教員が担う負担が多くなり、その時間、児童に目が行き届かなくなる。</p> <p>また、学年1名の教員であった場合、低・中・高学年は各2名で教員間の意志確認はとりやすいものの、教員間が切磋琢磨して、お互いの力量を向上させていくことに疑問がある。</p> <p>学校規模と教職員数とのバランスを考え、1学年2-3学級、しかも、30人程度の児童、1学年100名、そうすると低・中・高で4～6名の教員にプラス1名が増員されると目は行き届きやすくなるのではないかと思う。</p> <p>一方で、大規模校は施設を有効に使えない状況である。理科室、図工室、音楽室は2つないと教室でしかできないこともある。施設、教員数、学校全体の学級数とのバランスが大切と思う。</p>
<p>児童の生活や学習については、学校規模による違いというよりも、学校としての指導方針や担任を中心とする実際の指導によるところが大きいかと思う。</p> <p>一方、施設等を考えた学校運営としては、中規模校が効率的だと思いますが、効率的という面だけで学校の在り方を考えることには、議論を重ねていく必要があると思う。</p>
<p>大規模校の問題点は、学校行事を行う際、児童一人一人の活躍の場が少なくなること。一方良い点は、教員の数が増えるため、校務分掌の負担が減り、児童と向き合うこと（授業や生徒指導）に時間をかけることができる。小規模校の問題点は、教員が少ないため、校務分掌の負担が大きくなり、児童と向き合う時間がとりにくい。また、単学級だと、児童や保護者同士のトラブルを、学級編成で対応できなくなる。理想は1学年3学級程度だと思うが、人数だけに着目して、児童が1時間をこえて通学するような学区になってはいけないと思うので、学校規模と学区の編成のバランスも大切だと考える。</p>
<p>各学年2クラスあるとよい。ただし、クラスの人数まではどうしても思うようにはならないと考える。</p>
<p>大規模になれば大人も子供も人数が増え、多様性が高まるとは思いますが、一人一人と密な指導や連携しにくくなるとは思いますが。逆に、小規模であれば、人が密になりすぎるというデメリットがあります。大切なのは、それぞれのよさを持ちながら、デメリットを補う人的、経済的な対策を持つとよりよいものを目指せると思う。</p>
<p>学校運営を円滑に行う為には、規模もさることながら教員（正規）数が重要なポイントになると考える。残念ながら標準法で定数配置が決まる以上、加配措置による教員の手当てに頼るしかないのが現状である。もちろん市採用の支援員の加配は担任の負担軽減を考える上で大変有効だが、勤務時間や分掌等に制約がある為、多様な問題に対応しなければならない現在の学校において人的側面で根本的問題解決には到ってないと思う。</p>

<p>予算がゆるすのであれば、小規模校がベストだと思う。</p>
<p>大規模、小規模、それぞれにメリット・デメリットがある。</p>
<p>任された学校で、その学校の子どもたちをよりよく伸ばしていくことを目指して、実態を把握して教育活動を展開していくので、アンケートの問いの中で規模によらないという答えが多くなる。</p> <p>大規模・小規模両方の経験を通して、個に応じた指導という点では、後者が断然よいと思う。</p>
<p>学校規模は学級数ではなく、一クラスの人数によるところが大きいので、学級数だけでは判断がむずかしい。</p> <p>例) 41名で2クラスと80名の2クラスでは、全く違う。</p> <p>学校施設も「教室」を考えると学級数ではなく、1クラスの人数で、余裕があるかないかが決まる。</p> <p>例えば、35人学級や30人学級が実現すれば当然学級数が増えるので、学校全体の数が変わらなくても、小規模が中規模に変わるかも知れないので、そのあたりも考えていただくとよいと思う。</p>
<p>小学校は学級単位で動く事が基本なので、学級数よりも学級の人数が大きく影響する。小規模であっても1クラス40名近いと児童一人一人に目が届きやすいとはいえない。</p> <p>教職員の把握という点では人数が多い方がよいが、あまり多すぎるとまとまりに欠けてくる面もある。学年3学級がベストかなと思う。</p>
<p>小規模校・大規模校共に子どもたちにとって良い面もそうでない面も双方にあると思う。</p> <p>小規模校であれば、子ども同士や子どもと教師の間で、よりコミュニケーションはとりやすいと思う。しかし、子ども同士の切磋琢磨する力は大規模校に比べると弱くなってしまうと思う。子どもはいずれにせよ、入学した学校での経験が全てになるので、双方の良さを感じるような指導が大切である。</p> <p>学校規模も教育には、大きな影響があると思うが、多様な子どもが多く、1クラスの人数を減らして、よりきめ細やかな指導ができるようにすることも必要と思う。自分の経験上30人以下のクラスが望ましい。ただし、極端に人数が減少し、複式等になる可能性があれば、早急に統合を検討することも必要だと思う。</p>
<p>学校規模に応じた多様な教育活動は、人・物の投資で充実すると考える。</p> <p>複式学級や通学に1時間程度かかる場合を除いて、どちらの規模でもメリット・デメリットはあると考える。</p> <p>本市の現状ではどの学校でも効果のある教育活動ができると考える。</p>

規模に関係なく、ソフト、ハード面ともに各校の実態に則した配置等ができるかが肝心であると思う。

学校規模と教育の効果を関連付けることに疑問を感じる。それぞれの規模にメリットとデメリットがあり、メリットを生かしデメリットをできる限り減らすマネジメントの工夫を考えることが課題であると思う。

学校規模に関係なく、教職員の増員や子どもの1クラスあたりの人数に教育環境が大きく影響するものとする。

学校規模と児童の学習面についてはほとんど因果関係がないのではないかなと思う。関係するのは、職員の数と1クラスの児童数、空き教室数など施設面と人だと思う。フルタイムで働ける職員が増やし、少人数で個々をよく見てあげることができる環境が整っていたらと思う。大規模校の方が1クラスの人数が多い上に支援員さん等も1人あたりに見る子どもの数が多く、差を感じる。

ただ、学校運営上、学級数が多く、職員の数が増える程、情報共有したり、学習面、生活面を含め、足並みを揃えるための会議、相談の時間が必要となり、児童のための教材研究や指導の時間が多くとれなくなることも考えられる。反対に小規模校では、職員が休みにくい、正規（フルタイム）職員が少なく、校務分掌が1人あたり多いことは実際にある。

## 2 双峰小学校・唐竹小学校教員ヒアリングについて

両校の教員に事前にヒアリングシートに記入していただき、ヒアリングを実施しました。学校ごとに、教員アンケートと比較するため、学習面・学校生活面・学校運営面での主な意見を次のとおりまとめました。

### ヒアリング事項

I 学習面 現在の教育指導・授業形態・学習意欲について	児童一人ひとりにきめ細かい指導ができているか
	多様な学習・指導形態をとることができているか
	社会性・協調性を育てることができているか
	学校施設を有効に使うことができているか。
	児童が積極的に授業に参加し、学習意欲が向上しているか
	幅広い考え方を学ぶことができているか
	互いに切磋琢磨できているか
II 学校生活面 児童や先生との人間関係、学校行事、部活動について	児童同士や先生との人間関係を広げることができているか
	学年を超えての交流や活動ができているか
	トラブルやいじめをすばやく解決することができているか
	効果の高い学校行事を行うことができているか
	問題なく部活動ができているか
	学校全体に活気があり、楽しく生活を送れているか
III 学校運営面 教員間の連携、校務分掌、保護者対応について	教員間で意思疎通が図り、連携が密にできているか
	生徒指導の情報共有・組織対応ができているか
	学習指導についての協力ができているか
	校務分掌の負担が大きいのか
	保護者とコミュニケーションを密にとることができているか

## 【双峰小学校】

<p>I 学習面 現在の教育指導・ 授業形態・学習意 欲について</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童一人ひとりにきめ細かい教育指導ができているという回答が多い。できていないという回答もあるが、そのクラスの個別事情によるものである。</li><li>・グループ活動など多様な学習指導形態も、学校の工夫に行うことができている。特に双峰小学校では協同の学びを取り入れて、子供同士が教え合うなど教育効果を高める工夫をしている。</li><li>・社会性や協調性も育てることができていると思うが、クラスの個別事情によってはあまりできていない場合もある。以前は地域で育むことができていたことが、人間関係が希薄化によりできなくなってきている事は感じる。</li><li>・学校施設は、小規模ゆえに有効に使うことができている。</li><li>・児童の授業への積極的参加は、できているという回答が多いものの、できていないという回答もある。今よりももっと良くすることが目標。そのために、教員はさらに能力を向上させていかなければならない。</li><li>・幅広い考え方を学ぶことも、できているという回答が多いものの、できていないという回答もある。地域の人の話を聞いたりしており、学校の工夫次第で可能。地域人の話を聞くには、小規模の方が良い。</li><li>・切磋琢磨についても、できているという回答が多いものの、できていないという回答もある。4人グループに分けて学習することによって、高めあうことを行っている。</li><li>・学校規模よりも、クラス人数や児童の個別事情により学習面では大きい影響を受ける。1クラス30人を超えてくると、きめ細かい指導が難しくなってくる。</li><li>・外国籍の児童の日本語能力に差があるため、指導の難しさがある。</li></ul>
--	---

<p>II 学校生活面 児童や先生との人間関係、学校行事、部活動について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の広がりや、やり方次第のところがあり、現状として問題なくできている。</li> <li>・学年を超えての交流は、双峰小学校だけではないが、学年縦割りのグループを作って活動しており、できている。</li> <li>・トラブルやいじめなどもすばやい解決ができているという回答が多かったが、家庭の状況によりすばやい対応ができない場合もある。ただ、児童数が少ない方が校長など管理職員の対応がしやすい。</li> <li>・効果の高い学校行事はできているという回答が多かった。</li> <li>・部活動においては、できているという回答が多い一方で、一部できていないという回答もあり、先生の数が少ないので指導が大変なことが背景にある。</li> <li>・外国籍の家庭が多く、中には日本の教育や文化を理解していただけない場合もあり、対応が難しい。</li> </ul>
<p>III 学校運営面 教員間の連携、校務分掌、保護者対応について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間の意思疎通、連携は密にできており、生徒指導についての情報共有や組織対応もできている。職員室の雰囲気も良い。</li> <li>・職員数が少ないため、校務分掌の負担がとても大きい。</li> <li>・保護者とのコミュニケーションは、密にとれているという回答が多かったものの、一部外国籍の家庭との関係上、できていないという回答もある。</li> </ul>



## 【唐竹小学校】

<p>I 学習面 現在の教育指導・ 授業形態・学習意 欲について</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童一人ひとりにきめ細かい教育指導ができているという回答が多い。できていないという回答もあるが、個人の目標設定基準が高いと考えられる。人数が少ないので、子どもの状況を把握しやすく、しっかりと学ばせることができている。</li><li>・グループ活動など多様な学習指導形態も、学校の工夫により行うことができている。</li><li>・社会性や協調性も学ぶことができていると思う。</li><li>・学校施設は、小規模ゆえに有効に使うことができている。</li><li>・児童の授業への積極的参加は、できているという回答と分からないという回答に分かれた。積極的な授業参加に到達点というものはないため、より高みを目指していかなければならない。</li><li>・児童がいろいろな考え方を学ぶことについては、できているという回答が多かったものの、できていないという回答もあった。授業のやり方次第で多様な意見を引き出すことができている。</li><li>・切磋琢磨できているかということについても分からないという回答が多かったが、互いに高めあうという観点で見ると、少ない人数がゆえに自分の役割や責任の重さを自覚させ、結果的に積極的に役員などに取り組むようになっている。それにより、中学生になっても役員などに取り組んでいる。また、運動会で「唐小魂」の演目をやるときにも、だれも手を抜く事がない。</li><li>・教員の人数が少ないがゆえに、教員全体で研究など共通理解を図りながら進めることができおり、それが子どもたちの学力向上につながっている。</li><li>・日本語の習得が不十分な外国籍の児童や基礎学力が十分でない児童がいるので、少人数学習などを充実させる必要がある。</li></ul>
--	---

<p>II 学校生活面 児童や先生との人間関係、学校行事、部活動について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の広がりや、関係が固定化してしまう事が現実としてある。逆に、1クラスしかないため、苦手な子がいてもずっといっしょにいなければならず、うまく関係を作るすべを考えている。</li> <li>・縦のつながりが強く、上学年が下学年の面倒をみるなど、学年を超えた交流はできている。</li> <li>・トラブルやいじめについても、児童が少ないがゆえに発見しやすい。</li> <li>・唐竹小学校の児童は、規範意識が高いと思う。集合や整列などにおいてもしゃべったりせず、静かに待つことができている。そういった唐竹小の文化・歴史を感じる。</li> <li>・運動会などでも、学校の工夫で保護者にも満足いただいている。児童も少ないがゆえに役割を認識し、モチベーションも高い。</li> <li>・部活動では、指導者が少ないため男子バスケットボール部がないという問題がある。</li> </ul>
<p>III 学校運営面 教員間の連携、校務分掌、保護者対応について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間の意思疎通、連携は密にできており、生徒指導についての情報共有や組織対応もできている。職員同士の会話も多く、良い関係性を構築できている。</li> <li>・職員数が少ないため、校務分掌を複数担当し、負担が大きい（一つの役割自体は、大規模校に比べて少なくはなるが）。</li> <li>・保護者とのコミュニケーションは、小規模校ゆえに保護者が学校に関わる事が多く、良い関係性を構築できている。今回の統合についても、保護者の皆様が積極的に活動されており、唐竹小学校の教育活動に満足していただけていることの現れである。</li> </ul>

## 答申に向けての方向性について

## I これまでの検討委員会の議論の整理（議事録より）

## (1) 第1回委員会

- ・文部科学省の「学校の適正規模の手引き（平成27年1月）」において、クラス替えができない規模の学校においては、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要があることが示されている。
- ・「学校の適正規模の手引き（平成27年1月）」では、小規模校の課題として、①クラス替えができない、②切磋琢磨する教育活動ができない、③加配措置しなければ多様な指導形態をとりにくい、④部活動の種類が限定される、⑤運動会や学習発表会などの教育効果が下がる、⑥男女の偏りが生じやすい、⑦上級生間・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、⑧体育や音楽など集団学習の実施に制約が生じる、⑨班活動や部グループ分けに制約が生じる、⑩児童からの多様な発言を引き出しにくい、⑪教員と児童との心理的距離が近くなりすぎる、が上げられている。
- ・唐竹小では、上記②では運動会などでチーム分けをして競い合う環境を作っている。⑤においても少ない人数でも盛り上がり、充実した活動ができています。⑦も少ないがゆえにコミュニケーションが密にできており、一般論と現状との合っていないことがある。
- ・今回の検討は、現状の否定ではなく、仮に統合したら今よりもさらによい教育環境になるのかどうかポイントである。

## (2) 第2回委員会

- ・仮に統合した場合、正規の教員数は減る。また、場合によっては、1クラスの人数が増える場合もある。
- ・小規模校では、先生が児童の把握をしやすい。それが規模が大きくなると難しくなるのではないかと。

- ・1クラスの数が増えるデメリットを解消し、少人数学習を実施するために、補助教員を増員し確実にフォローできるようにする。
- ・児童クラブや放課後子ども教室の受け入れが可能かについても検証する必要がある。
- ・統合の際には、市は学校・保護者・地域の人と十分な話し合いをしなければならない。
- ・教員の充実も必要だが、スクールカウンセラーなどの子どもの心のケアも必要である。特に小学校高学年においては新しい人間関係作りにエネルギーを注ぎ、勉強に影響が出る場合も考えられる。
- ・子どもに夢のような学校を聞いてもらえるともっといい話し合いができるのではないかな。

### (3) 第3回委員会

- ・保護者アンケートを行う前に、仮に統合したらどのような学校になるのかイメージを作り、共有する必要があるためイメージ案を作成。
- ・教員補助を増やすだけでなく、勤務時間や職務内容を広げる必要がある。また、少人数学習を行う教科などについては、学校の裁量で行えると良い。
- ・定住外国人向け日本語教室を学校内に設置できると良い。
- ・部活動について、主体は教員で技術指導という形で外部の指導員を配置できると良い。
- ・ハード面では、トイレの洋式化が必要。

### (4) 第4回委員会

- ・保護者意見交換会では、仮に統合する場合にはエアコンを設置してほしいという要望があった。
- ・統合する前に両校で十分に交流する必要がある。一方で移動時間が大変かかるため、授業時間の確保などの問題が出る。
- ・仮に統合した場合、距離的に通えないわけではないが、1キロ弱、20分程度ほど増える。通学路の安全確保の問題が重要である。

- ・ 補助教員を増やすことによって、子どもたちの成長にどういう風につながるかコンセプトが必要である。
- ・ 図書館の充実も考えた方がよいのではないか。
- ・ 子どもの社会性を考えると統合したほうがよいと思う。人間関係について、上下だけでなく同年代での関わりも多ければ多いほど、子どもたちの力になる。人間関係が増えればトラブルも増えるが、それを乗り越える力を徐々につけさせてあげることが大事ではないか。
- ・ 統合自体を目的にするのではなく、元気に豊明市の将来を担っていける子どもたちを育てるところをゴールにすべき。子育てを豊明でしたいと願えるような教育環境を作る将来構想のステップとして考える。子どもたちにとって、保護者にとって、より良い教育環境を豊明市が提言していくこと。
- ・ 統合という機会を使って新しい教育環境を模索していく事は大事であるが、統合したときに起きるであろう様々な問題を考えると不安の方が大きい。
- ・ 唐竹小学校がなくなるのは反対。子どもたちも和気あいあいと活動しており、一般論で言われている小規模校のデメリットは当てはまらない。人数が少ないがゆえに、様々な長を経験し、積極的に学校運営に関わることができる。それにより、中学校に上がっても活躍することができている。
- ・ 外国籍の子ども1クラスあたりの人数が増えると対応が難しくなるのではないかと。
- ・ 社会に出る前にコミュニケーション能力を身につけさせないと本当に困るのではないかと。色々な子と関わり、友達を増やしておく方が中学校に行ってもスムーズになじめるのではないかと。
- ・ いじめられている子にとっては、クラス替えがあることが救いになる。
- ・ 新しい学校を作ることが最低条件ではないかと。どちらかの学校に吸収されるというのは、よりよい環境になっていない。
- ・ 多くの子どもが交流することによって勉強などにおいて競争意識やコミュニケーション能力がつく。

- ・統合することについて、子どもたちに不安に思うことや新しい学校に対する希望やイメージを聞いたほうがよい。

#### (5) 第5回委員会

- ・間米の区画整理によって人口が増える見込みはあるが、かなり先になる。
- ・アンケート結果を見ると通学距離に不安を感じている人が多い。学区の見直しも必要である。
- ・外国籍の子どもへの不安もあるが、一方で学級委員など活躍する子どももいる。
- ・唐竹小学校の未就学児のみの世帯では、統合する必要があるという考えは少ない。一方で唐竹小学校の就学児の世帯では、とても高くなる。それは学校に対する愛着や信頼などを育ててきた教育の成果である。また、現状のままであり続けたいと願う保護者の思いはある意味で当然のことであるが、統合によって今よりも良い教育環境になるのかどうか客観的に考える必要がある。

## II アンケート結果について

### (1) 保護者アンケート

- ・双峰小学校の就学児のいる世帯では、「統合により多くの友達や先生にめぐり合えることができる」、「運動会や学習発表会に活気が出る」ことに魅力を感じ、「児童一人あたりの正規の職員が減るため、目が行き届きにくくなる」ことを課題に感じている。
- ・唐竹小学校の就学児のいる世帯では「統合する必要はない」「統合に魅力を感じない」と考えている世帯が多く、「通学距離が遠くなる」、「統合前後で精神的負担が大きい」、「児童一人あたりの正規の職員が減るため、目が行き届きにくくなる」ことを課題に感じている。
- ・未就学児の保護者では、「統合により多くの友達や先生にめぐり合えることができる」、「クラス替えができる」ことに魅力を感じ、「通学距離が遠くなる」、「児童一人あたりの正規の職員が減るため、目が行き届きにくくなる」ことを課題に感じている。

## (2) 教員アンケート

- ・児童一人ひとりに目が届き、きめ細かく教育指導できるのは小規模という考えが多い。
- ・多様な学習、指導形態、子どもの学習意欲、授業への積極参加に学校規模は関係ないという考えが多い。
- ・学習面での切磋琢磨、幅広い考え方を学ぶには、人数が多い方が良いという考えもある一方、学校規模は関係ないという考えもある。
- ・学校行事では、中規模校が効果があるという考えが多く、多様な部活動では、大規模校が効果があるという考えが多い。
- ・児童同士の関係の広がり、規模が大きい方が良いという考えが多い。
- ・社会性・協調性を育てること、コミュニケーション能力を養成することについては、学校規模は関係ないという考えが多いが、中規模校が良いという考えも一定数ある。
- ・学年を超えた交流は、規模が小さい方が良いという考えが多い。
- ・児童間のトラブルの起きにくさに学校規模は関係ないという考えが多い一方、小規模校が良いという考えも一定数ある。
- ・教員間の意思疎通・相互連携は小規模校が良いという考えが多い。
- ・学習指導の研究・協力の行いやすさについては、中規模校が良い。

### Ⅲ 答申の組み立て

(1) 豊明市の将来を担う子どもたちにどのような教育環境を提供すべきか。

(2) その教育環境を実現するために現在どのような課題があるのか。

(3) どのように実現していくべきなのか。